

寺 報 善 巧

発 行

☎ 938-0862 富 山 県
黒部市宇奈月町浦山497
白 雪 山 善 巧 寺
T E L (0765) 65-0055
F A X (0765) 65-0975
メー ル info@zengyou.net
U R L http://www.zengyou.net

十月十九、二十日
報 恩 講
十一月四、五日
空 華 忌

寺
ごよみ

十 月

一日	板屋お講	一九日	午後一時半 お逮夜
四 日	清掃奉仕	午後七時	お初夜
一三日	実行委員会	二〇日	午前十時 お日中
一五日	お道具磨き	午後一時半	ご満座
一六日	三日市お講	講 師	川崎順正師
一七日	米とき		
一八日	法要準備		



いのちはどこにあるのか？そんな問いを永代経のご縁で日置先生がお話くださいました。

私のいのちは、私のものと考えて、今ここにありものとしか受け取れません。だから、このいのちが無くなれば、すべてが終わるだと思ってしまう。これは、子供を授かると少し見方が変わってきます。私以外にもいのちはありました。痛みの共感や喜びの共感がダイレクトに伝わってくるようないのち。仏さまの目は、それが我が子だけに限らず、すべてのいのちに注がれているんだと言います。すべてのいのちに、我がいのちと同様の重さを感じられるのなら、すでに死という考え方は、私の思うようなものではなくあります。

そして、仏さまは、私たちのいのちを、死んでいくいのちや滅んでいくいのちとは見ていません。

いのちはどこにあるのか？

生まれていくんだよ、と言われます。仏さまという尊い姿に生まれていくいのちを今生きていると思い、我が名ナモアマミダブツを称えながらその人生を生き抜きなさい、と。仏さまになるということは、すべてのいのちに痛みの共感と喜びの共感が生まれます。それが本来の私のあるべき姿と受け取ります。死を滅びとしか受け取れなかつた私に、新しいいのちの息吹を与えてくださいました。

現代の常識は永遠に続くものではなく、時代や場所で変化していきます。変化していく考え方は本当の頼りにはなりません。仏法を聞くということは、私の常識を超えた言葉との出会いでもあります。秋は報恩講と空華忌の二大法要が勤まります。どうぞ時間を割いてお参りください。

善巧寺住職

雪山 俊隆

親鸞聖人七五〇回大遠忌

法要実行委員会

六月二十二日の第一回七五〇回大遠忌法要・記念事業実行委員会を受けて、第二回委員会が九月七日午後二時に開催されました。住職、法輪寺、照行寺、責任役員有馬文義氏ら十五名が出席。前回の委員会の結論では本堂の基礎土台をまずしっかりと



せねばということ、神社仏閣設計施工専門業者からの新たな見積もりが発表されました。本堂下の土台・縁側の張り替えなどでおおよそ一千万円の増。懸案のお蔵の補修とそれへの渡り廊下新設を含めると、四千万円をうわまわる額が提示されました。

委員会では、まず臨時総代会に諮問した後、来年にでも全門徒を対象に門徒総会を開くべきだという意見が出されました。

また、このほかに、本堂東側便所の水道管の見直し、鐘楼の漏り留め、会館の屋根の防水なども早めに手を打つ必要があるということ、新たにそれらの見積もりも次回までにとることになりました。門徒の皆さんからの懇志をいつからどんな方法で集めさせていただくかは再度委員会を開いて、最良の案を出すことになりました。

次の委員会は十月に開催されます。

世界で一番わかりやすい
アニメ親鸞さまの物語です。

親鸞聖人750回大遠忌法要記念作品
DVD・VHSビデオ

親鸞さま
ねがい、そして ひかり。

家族みんなが楽しめる!!

好評発売中

親鸞さまが歩き出し、語りかけてくださる。

ある春の日、85歳になられた親鸞さまは近所に住む春と菊坊と散歩に出掛けられ、子どもたちとの会話から、ご自身の生涯を振り返られます。

CHAPTER 1 (約39分)

得度～流罪

9歳で得度され、比叡山で20年間厳しい修行に励まれた親鸞さま。しかし...



CHAPTER 2 (約39分)

越後～関東

越後で人びととの温かな交流を通じ、お念仏の教えをひろめる決意を固められる親鸞さま...



CHAPTER 3 (約30分)

関東～京都・ご往生

関東を離れ、親鸞さまは京都へ。一方関東では、嗣した教えがひろまり門弟たちに混乱が...



食事の時の 「いただきます」って何ですか？

衣・食・住は、人間が生きていくうえでの生活基盤です。そのうちの「食」の安全にかかわる出来事が立て続けにおこり、「食」に対しての関心が高まっています。「食育」という聞き慣れない言葉を、あちこちで聞くようになりましたが、それは2005年に「食育基本法」という法律が施行されたことがきっかけのようです。「動物は食べないと生きることができない」ということは、誰もがわかっていることですが、「食べること」について法律を設けなければならないほど、私たちの食生活が危うくなっているということなのでしょう。

「食べる」ということをいま一度いっしょに考えてみましょう。

ある新聞の投稿欄に、次のような文章が載せられていました。

中学生の保護者から、「学校側に給食費を払っているのだから、うちの子に『いただきます』を言わせないでほしい！」という要望が出たと聞いて驚いた。挨拶をしない時代が来るのだろうか。食事ができるのは当たり前、生きていても当然なのであろうか。それを子どもたちに教えるべき親や教師は何を大切に感謝し生きているのだろうか……。

この記事を引きかけとして、「『いただきます』を言わせないでほしい！」という意見に共感する、しない、などさまざまな議論がおこったことは記憶に新しいところです。



どこの家庭でも、合掌して、「いただきます」「ごちそうさま」と言っていた光景は、いまや消えつつあります。このままでは、懐かしがることしかできなくなってしまうのではないのでしょうか。

私たちが食事でいただいているのは、「いのち」なのです。今、「わがいのちを生きること、いのちをいただいていくことだ」という事実が見失われつつあります。

ある子ども会の夏の集いで、昼間みんなで、地引き網で捕った魚を夕食で食べたとき、捕った魚と食卓に出てきた焼き魚が、どうしても結びつかなかった子どもの話を聞いたことがあります。

生きることは、 いのちをいただいていくこと

また、魚の絵を描くとき、スーパーで売っている食品トレーの上に乗せられた切り身の絵しか描けない子どもがいるということも聞きます。

その子たちにとってみれば、お魚はスーパーで買うものであって、海や川で泳いでいるお魚とは別物という感覚なのでしょう。

実は、その子たちの感覚は特別なものではないのかもしれませんが。

食卓に並んでいる「いのち」がどこでどう生きていたのか、そして、どのように私の「いのち」をつないでくれるものとなったのか、日ごろ私たちもほとんど意識することがないからです。

「いのち」を食べている事実気付いて、その「いのち」に感謝する言葉が「いただきます」なのです。私たちが何気なくつかっているこの言葉を、もっと大切にしていきたいと思います。

縁 —いのち—

永代祠堂会

七月十六〜十九日

永代祠堂会は例年通り
七月十六日から四日間勤
まりました。初日は中陣

のお講もあり、仏教婦人
会のお参り日。佐々木枝
美子会長はじめ現役員や
旧役員十名が献灯献花し
ました。仏婦ではバザー
を四日間行い、終日賑わっ



「お寺でクイズ」

ていました。収益金は仏
婦活動費となります。
十八、十九日は御講師
に三重県から日置宗明師
をお迎えしました。日置
師は住職たちが学んだ行
信教校の常見寺住職利井
唯明師の実弟です。東京
で演劇を学んだ経験もあつ
て表現力豊かに、仏様は
あらゆるいのちの一つ一
つに宿っておられるとお
取り次ぎくださいました。
ご満座には長年総代を務
めてくださった方々へ住
職から感謝状をお渡しし
ました。



野崎吉明氏（代理）



橋場正一氏



岡田 実氏



嶋田久之氏



仏婦献灯献花



総代献灯献花



有馬文義責任役員挨拶

釈俊之 十三回忌法要

八月十一日

前々住職釈俊之の祥月命日の八月十一日、福井の長慶寺住職お導師のもと十三回忌が勤修されました。
お勤めの後、八尾の聞

名寺住職霧野雅磨氏の御法話をお聴聞し、在りし日の俊之師を偲びました。
暑い最中総代や仏婦の方々が参詣されました。
健在なら百歳近くになる前々住職の妹さん達も高齢のため参詣できず、本人にかわって息子・娘さんたちがかけつけてお参りくださいました。



総代・仏婦など多勢のみなさんで清掃奉仕



青年盆会

八月十三日

お寺とご縁のある若者が集まって、おつとめとお話のあと、バーベキューを行いました。

こども盆踊り

八月十五日

恒例のこども盆踊りも今年で三十一回目。雨の予報を覆して、境内で賑やかにこどもたちが踊りました。



お盆参り

八月十六日

今年一年の間に亡くなられた方のおられる家を中心に、お参りいただいております。

雪ん子劇団 夏の定期公演

八月三十日

雪ん子劇団の現在のこどもの数は二十名弱。少ない人数ながら、一人一人が手を抜くことなく一杯に演技し、例年以上に出来映えのよい公演となりました。



仏教講座最終回

九月八日

四月八日から六回講座としてはじまった仏教入門講座。今年は「親鸞聖人の生涯」を参加者と一緒に楽しく学びました。来年の四月からまた行いますので、是非ご参加ください。

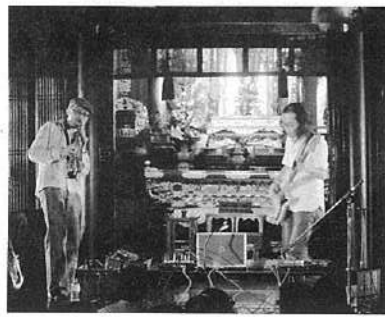


お寺座ライブ

九月二十日

ミュージシャンをお招きし、一口法話や読経を交えてお送りするお寺の音楽会。今年は県内外か

ら二百五十人ほどのお客さまが来院されました。



寺
ごよみ

十一月

一日 愛本新お講

空華忌

四日 午後七時 夜の法座

五日 午前十時 お日中

午後一時 ご満座

講師 利井唯明師

一六日 浦山新お講

二二日 雪ん子劇団 コラレ公演

三〇日 雪ん子劇団 入善公演

寺
ごよみ

十二月

一日 下立愛本お講

六日 清掃奉仕

一六日 浦山しまいお講

二九日 米とぎ

三〇日 もちつき

日校もちつき大会

三二日 除夜会

*報恩講の日程は七頁をご覧ください。また、地区ごとくに別紙も配布します。



お盆参りの参拝者



氷見明覚寺仏婦のみなさん



雪ん子合宿でのおつとめ



山陰教区のみなさん

十月・十二月のほんごさま日程

寺
ごよみ

十
月

二日 音沢地区
三日 音沢地区
六日 栗虫地区
七日 栗虫地区
八日 栗虫地区
九日 富山地区
一四日 魚津地区
一五日 経田・田家・
柳沢地区
一七日 東狐地区
二二日 東狐地区
二七日 板屋地区
二八日 板屋地区
二九日 板屋地区
三〇日 上野地区
三一日 上野地区

寺
ごよみ

十二
月

一七日 栃沢地区
一八日 滑川・出地区
一九日 浦山新地区
二一日 浦山新地区
二四日 浦山新地区
二五日 中陣地区
二七日 中陣地区
二八日 愛本新・愛本
地区
二九日 愛本新・愛本
地区

寺
ごよみ

十一
月

七日 飯野・芦崎地
区
八日 中新地区
一〇日 中新・石田地
区
一一日 石田地区
一三日 栃沢地区
一四日 栃沢地区
一五日 栃沢地区

一一日 下立愛本地区
一二日 下立愛本地区
一三日 下立愛本地区
一七日 内山地区
一八日 音沢地区
二〇日 音沢地区
二二日 音沢地区
二四日 音沢地区
二五日 音沢地区

報 恩 講

浄土真宗で最も
大切な法要です。

十月十九日 午後一時半 お逮夜

午後七時 お初夜

二十日 午前十時 お日中

午後一時半 ご満座

発願寺住職 川崎順正 師

*十九日夜は絵解き説法です。

聞法の秋です。どうぞ
どうぞお参りください。

空 華 忌

明教院僧銘法師の
法要です。

十一月四日 午後七時 夜の法座

五日 午前十時 お日中

午後一時 ご満座

行信教校講師 利井唯明 師

ほんこさま

昨年と日程が多少違う
地区がありますので、お
気をつけください。年に
一度のほんこさま、大切
にお勤め致しましょう。

報恩講準備

十月四日 八時半

清掃奉仕

十五日 午後一時半

お道具磨き

十七日 八時半

米とき

十八日 八時半

お華束・掃除

空華忌準備

十一月四日 八時半

屋内清掃

越冬清掃奉仕

(雨天順延)

十二月六日 八時半

日曜学校 もちつき大会

十二月三十日 午前十時

除夜会

十二月三十一日

合 掌

あつい夏でした。賑や
かな夏でした。祠堂会、
盆踊り、盆会、本山助成
会、雪ん子劇団公演、お
寺座ライブなど年中行事
に法事やお講、雪ん子、
花の会、仏教講座など定
例行事を含めると千五百
人以上の人が出入りした
ことになります。前住職
隆弘がこんな計算をよく
していましたね。お寺に
大勢人が集まるのは有り
難いことです。

* * *

予定日より一週間余早
い八月二十七日、住職夫
妻に赤ちゃんが授かりま
した。空華の華をとって
華依(かえ)と申します。
どうぞ可愛がってあげて
ください。



花